

電子資料解題⑦

CiNii

山本 睦子

I. はじめに・概要

当館では3年前より、国立情報学研究所が運営する学術文献データベース「CiNii」を教員の要望により導入しました。

CiNiiは、日本国内の284の学協会から発刊されている紙媒体の学協会誌約1,000タイトル、約300万件の論文本文がPDF化されています。なお、大学および短期大学が発刊している研究紀要もこれに含まれています。

II. 利用料金・契約形態について

当館では利用者番号やパスワードを使用しない、IP認証方式の機関別定額制を利用しています。そのため、学内LAN接続のPCであればIDおよびパスワードが不要で24時間利用できます。

利用料金は年度単位の固定料金で、所属する常勤の教員もしくは研究者の利用者数ごとの料金体系となっています。当館は100人以下の年間55,000円を利用料金として支払っています(101~200人まで 100,000円、201~300人まで 150,000円)。

なお、機関定額制のサービスでは利用機関に所属する構成員(教員、研究者)は新たに個人でIDを取得し、自宅など施設外のパソコンからもアクセスできます。

また、利用状況は管理者(図書館)で把握することができます。

III. 検索方法

次に論文検索方法を簡単にご紹介いたします。

検索方法は3種類の設定があります。

1. キーワード・簡易検索
2. フリーキーワードによる検索 (図1、2)
3. 雑誌収録状況による検索 (雑誌・出版社一覧から探す方法。文献の詳細な書誌情報が分かっている場合便利です)



図1 検索画面

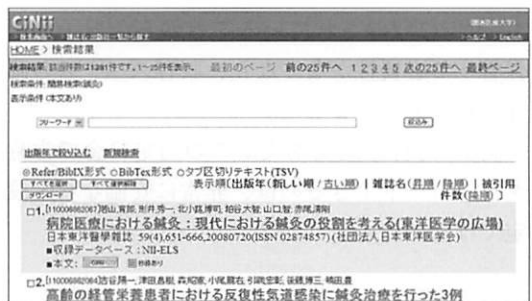


図2 検索結果

1~3の検索の結果、読みたいタイトルをクリックすると収録されているデータベース、所蔵場所、抄録、参考文献、引用頻度がわかります。また、論文本文へのリンクがあり、無料で閲覧・保存・印刷することができます(図3)。

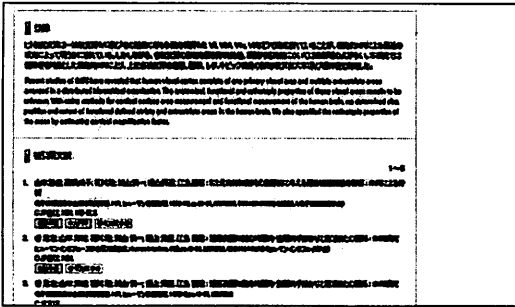


図3 検索結果 (詳細)

IV. 当館での状況

CiNiiは医学中央雑誌刊行会が提供している「医中誌Web」にリンクされており、医中誌Webで文献を検索した結果、その文献がCiNiiに収録されているものであれば、その場で閲覧でき、全文提供されている場合は即座にダウンロードが可能です。

「CiNii」と昨年導入した「メディカルオンライン」とを利用することにより、利用者は、手元に文献が到着するまで日数を要することなく、そして図書館に文献の複写依頼をする煩わしさもなく、即座に求める情報を手にすることができるようになりました。そして、和文献の学外への複写依頼件数が減り、職員の業務軽減にも繋がりました。

また、多くの大学・短期大学発行の研究紀要もCiNiiに収録されていることから、冊子体を保管する必要性がなくなり、収容スペースの確保も可能となりました。

約300万件の論文本文がこの固定料金で常時ダウンロードできるのは、非常に安価な料金設定ではないでしょうか？

V. おわりに

以上、非常に簡単ではございましたが、CiNiiの紹介をさせていただきました。図書館で冊子本体を複写するよりも、パソコン上で閲覧、ダウンロードの方が手軽で利用しやすいということもあり、文献をPDF化し、その場でダウンロード可能な各種データベースが、昨今多く登

場するようになりました。当館では外国雑誌のオンラインジャーナル導入についても検討しています。

何度も述べたように、手軽で便利であることは事実ですが、全てをオンラインジャーナルに頼ってしまうと、図書館の役割、つまり資料の「収集・保管」だけではなく図書館自体の必要性が疑問視されてしまいます。今後、雑誌のみならず、図書についてもオンライン化が進む可能性も充分考えられます。実際、まだオンラインジャーナルほど浸透はしていませんが、図書のオンライン版「E-BOOK」も存在しています。この文章を書くにあたり、図書館の今後の在り方について、自館が何らかの方向性を持っていかなければいけないということを確認しました。

CiNiiを初めて利用する方、まだ使い方がよくわからない方のために「CiNii入門 (http://ci.nii.ac.jp/cinii/pages/quick_guide.html)」が国立情報学研究所のサイト内で見ることができます。サービス解説編・サービス利用方法編に分かれており、わかりやすい内容となっています。当館でも利用者案内に「CiNii入門」を利用しています。導入時の利用者への案内として活用されてはいかがでしょうか。